

# 小学校教員養成課程における音楽実技能力向上の試み

——お話に基づく「音楽発表会」の実践の分析と考察——

Trial Inclusion of Practical Music Ability Development  
in Elementary School Teacher Training Course:  
An analysis of the implementation of “music recital” based on story-telling

吉田 直子・佐藤真由子

YOSHIDA Naoko・SATO Mayuko

## I はじめに

音楽科教育においては「学習指導要領」が示すように「表現や鑑賞の活動を通して音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことが目標に掲げられている。子どもの「音楽を愛好する心情」を育てるためには、指導者自身が音楽を愛好する気持ちを持ち、授業の中で自信を持って歌唱したりピアノなどの楽器を演奏したりして、音楽に触れ合う場を豊かに展開できることが望まれる。しかし、学校以外で音楽学習経験が乏しいなどの理由で、ピアノの実技に苦手意識を持つ学生は少なくない。教員養成課程を持つ多くの大学では音楽経験の差による個人差をふまえ、能力別課題や進度進行表によるグループ指導や、カデンツを中心とした簡易伴奏づけなど、学生のピアノ実技能力を高める工夫を重ねている(岩崎 1989、三小田 2011、梁嶋 1989)。

立命館大学では、産業社会学部に設置された子ども社会専攻において、小学校教員養成を行っているが、そこにおいて、免許法上さだめられた「音楽」の「教科に関する科目」として、必修科目の「音楽Ⅰ」と選択科目の「音楽Ⅱ」が開設されている。「音楽Ⅱ」では、学校での音楽行事なども念頭に、講義の学びの集大成として学生が自主的に計画して発表会をおこなうことをシラバスに掲げ、学生リーダーを中心に受講生全員で計画、準備をして発表してきた。学生が物語を決め、作成したスライドを映写しながら、作成した台本のセリフで役割を分担し、物語のそれぞれの場面にふさわしい曲を選び、演奏を分担するお話に基づ

く音楽発表会である。そこで筆者が主に指導を担当した 2013 年、2014 年について、アンケートやコミュニケーションペーパーに書かれた受講生の意見や感想を参考に、お話に基づく音楽発表会を振り返り、この取り組みにおける学生の学びの内容を明らかにしたい。

## II 「音楽Ⅱ」の授業について

### 1 「音楽Ⅱ」を受講する学生の現状と講義に対する期待

立命館大学の小学校教員養成カリキュラムでは、音楽科の「教科に関する科目」として「音楽Ⅰ」が必修科目として、「音楽Ⅱ」が選択科目として設置されている。「音楽Ⅱ」は「音楽Ⅰ」において身に付けた実践能力をさらに発展させ、音楽科授業を展開させるうえで求められる音楽的な実技能力をさらに向上させることを目的としている。

選択科目である「音楽Ⅱ」では、音楽が好きでシラバスに掲げられた「発表会」に魅力を感じて受講する学生、音楽の表現技術をさらに向上させたいという目的を持って受講する学生と、教員として音楽的な実技能力が現状では不十分であると自覚したり、指導教員よりアドバイスを受けていたりして受講する学生が混在しているのが特徴である。

また、3 回生と 4 回生が混在していることも特徴といえ、4 回生は夏に教員採用試験を控える者もあり、クラスにおける実技能力の向上に対する切迫感に違いがみられる。

こうした実情をふまえ、本講義を受講する学生の希望を講義に反映させることを目的に、「音楽

Ⅱ」の授業に対する期待、学生自身の学習目標、教師として必要な音楽的能力についてどのように考えているか等を把握するために毎年度初めに簡単なアンケートをおこなっている。

「音楽Ⅱ」の講義に対する学生の期待の内容や勉強の目標、学生の考える「教師として必要な音楽的能力」を問う設問に対し、2013年度と2014年度<sup>1)</sup>のアンケートの回答は次の通りである。

質問：「音楽Ⅱ」の授業でどのような事を学びたいですか？または自分なりの学習目標

#### 【2013年度】

##### 1. ピアノに関すること

- ・ピアノがあまり得意ではないので、上達したい。
- ・ピアノがもっと上手に、弾き歌いが出来る様になりたい。
- ・楽譜通りに弾けるようになる。ピアノが弾けるようになりたい。
- ・伴奏ができるようになりたい。みんなが歌っていて楽しくなるような伴奏を頑張りたい。
- ・教員採用試験にある弾き歌い、バイエル、リコーダーがあるのでその対策をがんばりたい。
- ・ピアノが出来なくなったので練習したい。

##### 2. 音楽的知識に関すること

- ・声楽、器楽、楽典全ての面での成長
- ・幅広く音楽を知りたい。
- ・授業では基礎から幅広く色々なことが知りたい。

##### 3. 指導技術に関すること

- ・楽譜がすらすら読めるようになりたい。(音楽が苦手)
- ・音楽という科目を子どもに教えることができるように。
- ・音楽が苦手なので履修した。ある程度の技術は身につけたい。
- ・音楽の楽しさの伝え方を学びたい。
- ・音楽の授業をどうやって教えるのか。

##### 4. 発表会に関すること

- ・合奏がしたい。
- ・発表会をやってみたい。それに向けてのピアノ向上。

#### 【2014年度】

##### 1. ピアノに関すること

- ・教員採用試験の実技対策(ピアノの実技、リコーダー、歌唱、)
- ・ピアノ実技を取り戻したい。
- ・弾き歌いが出来る様になりたい。(中3でピアノをやめてしまい、約6年間ピアノの音にあまり触れていないので)
- ・教員採用試験でピアノがあるので、両手で弾けるようになりたい。
- ・ピアノの弾き語り (の習得)

##### 2. 音楽的知識に関すること

- ・音楽の基礎・知識の習得

##### 3. 発表会に関すること

- ・ミュージカルをやると聞いて、子ども社会専攻らしく、面白そうと思ってとった。
- ・アラジンかライオンキングをやってみたい。
- ・楽しんで授業に取り組む！

質問：教師として音楽科を担当するうえでどのような(音楽的な)能力が必要だと思いますか？

#### 【2013年度】

##### 1. 音楽技術的な能力

- ・ある程度音程のとれた歌声
- ・ある程度の音感・楽器・歌唱の技術
- ・歌うとき音はずさないようにすること、ピアノをひくとき戸惑わない。
- ・ピアノが弾けて歌えること
- ・ピアノが弾ける、リズム感、音感
- ・ピアノの能力、リズム感
- ・ピアノが弾ける能力
- ・発声、子どものお手本となる歌い方

##### 2. 音楽の指導に関わる能力

- ・楽しんで歌えるような工夫ができること

- ・表現力と子どもの表現力を引き出す力
- ・子どもの見本になれるように歌える能力
- ・歌うことが苦手な子どもに指導する能力
- ・子どもたちが音楽の楽しさに気づけるように、楽しい授業をつくる能力
- ・子どもの歌や楽器の演奏をききとる能力とそれに対して何が課題かを考える能力
- ・苦手意識をもたないように楽しく教える。

#### 【2014年度】

##### 1. 音楽技術的な能力

- ・リズム感
- ・楽譜を読むことができる。聞いた音を自分で再生することができる。
- ・ある程度の技術・聞き分ける力
- ・弾き歌い、楽典
- ・ピアノ
- ・ピアノが弾ける、音符などの知識、歌が歌える。

##### 2. 音楽の指導に関わる能力

- ・音感とイメージ、リズム感をしっかり育て、表現鑑賞の能力を身につけさせられる(子どもに)ように、自分自身がこれらの能力を養う。

上記のように、学生は教師に必要な音楽的な指導技術として、ピアノや歌唱などの技術、授業の構成力を含む指導力、音楽的知識などを考えており、それに対応して、講義に対する期待の内容も、「ピアノ技術」や「弾き歌い」、「伴奏」能力の向上、「音楽的知識」、「指導法」の習得と、シラバスに掲げられた「発表会」などが挙げられていた。教員採用試験の実技対策として現実的な対応を期待する部分と、仲間と一緒に学生時代にしかできないような楽しいことをしてみたいという意欲が共存していることがアンケートより推察された。

そこで両年度ともに、学生の期待する内容をふまえ、「音楽Ⅰ」で学習している音楽的知識の復習と、弾き歌いや伴奏づけ等のピアノ技術について一斉講義と演習をおこなう一方で、発表会の日に演奏する曲を個別に課題として設定し、各自で発表会を目標に個別練習をさせ、講義内で個別指導を並行する方法で授業を進めることにした。

### Ⅲ 指導内容

2013年度、2014年度ともに音楽的知識の復習、教科書教材の弾き歌い、発表会曲の準備を並行して進める方針は同じであるが、受講学生の学年分布が、2013年度と2014年度では微妙に異なっていた。そこで、両年度の受講生の講義に対する希望を考慮して授業を進めた。

#### 1 2013年度

2013年度は、シラバスを見て、発表会を期待して受講した学生と、ピアノの実技能力や音楽的知識が不十分と自覚した学生や、教員よりアドバイスを受けて受講した学生とではかなりの能力差がみられた。このため、ピアノ経験年数及び、既習の教則本名の自己申告を参考に、クラスを能力別に2つのグループに分けて講義を進めることにした。ピアノ経験者グループ（以下、経験者グループ）では学生リーダーを中心に、発表会の企画を中心になって担当し、発表会で演奏する曲も各自学生自身で選曲した。講義では、経験者グループでは和音とコードネーム、Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅶの和音を中心に使用した伴奏づけ、移調、共通教材の弾き歌いなどグループの実力に合わせて内容を講義した。

一方、初心者グループでは「音楽Ⅰ」で学んでいる音名、6／8拍子、調号、音程、音階、和音などの基礎的な音楽知識の復習に加えて、「指くぐり」、「指替え」などのピアノの初歩技術の手ほどきをおこなった。簡単な曲の伴奏づけ、弾き歌いの実習、簡易な共通教材の弾き歌い、コードネームについて一斉講義と演習をおこない、発表会で弾く曲は教員が能力を鑑みて選曲し、相談のうえで決定した。両グループ共に、発表会の選曲後は教員が個別にアドバイスした。発表会までの流れと演奏曲目は表1、表2の通りである。

発表会実施の方針確認の後、ストーリー、曲決定までの流れの最初の段階が、もっとも重要な部分である。この部分を、教員主導ではなく、学生主導でどのような発表会にするのか充分イメージさせ、学生全員が想いと期待を共有すると同時に、実力とイメージに見合う選曲をすることが成功の鍵になる。2013年度は、初心者グループの学生

表1 2013年度「美女と野獣」発表会までの流れ

講義回数	日時	事項
1	4/11	発表会実施の方針確認
2	4/18	リーダー決め、ストーリー検討、発表会日程決め
3	4/25	ストーリー決定 曲選び
4	5/2	台本決定 曲決定
5	5/9	セリフ担当、曲の挿入部分決定
6	5/16	個別対応
7	5/23	個別対応
8	5/30	個別対応、スライド作成
9	6/6	個別対応 曲とセリフ追加
10	6/14	個別対応、ストーリーに合わせて通し演奏
11	6/21	通し練習、プログラム、チラシ検討
12	6/28	ホールリハーサル、開始時間決定、演奏曲挿入部分一部変更
13	7/4	個別練習、プログラム完成
14	7/11	本番

表2 2013年度演奏曲目一覧

No.	演奏曲目	作曲者／編曲者
1	Belle (変わり者ベル)	A. メンケン
2	Mission Bells (教会の鐘)	W. ギロック
3	Sarabande (サラバンド)	W. ギロック
4	Andante (アンダンテ)	C. ツェルニー
5	Belle (ベル)	A. メンケン
6	Hernando's Hideaway (ヘルナンドの隠れ家)	J. バスティン
7	A Little Songs (小さい歌)	D. カバレフスキー
8	Be Our Guest (もてなし)	A. メンケン
9	Gaston (ガストン)	A. メンケン
10	French Doll (フランス人形)	W. ギロック
11	Tarantella (タランテラ)	外国曲
12	The Mob Song (暴徒の歌)	A. メンケン
13	Etude (エチュード)	D. カバレフスキー
14	Transformation (夢叶う)	A. メンケン
15	Beauty and the Beast (美女と野獣)	A. メンケン

には教員が能力に合った選曲をし、経験者グループの学生はアラン・メンケン作曲のオリジナル曲<sup>2)</sup>を弾きたいと希望して各自で演奏曲を選曲した。しかし、アラン・メンケンの曲はオリジナルがピアノ用ではないため、編曲の楽譜は学生が想像したよりは弾きにくく、結果的に経験者グループの方がなかなかスムーズに弾けるようにならずに苦勞した。楽譜から難易度を見定めることはかなり音楽的に専門的な能力が必要であるため、選曲に関しては、技量のある学生に対してもある程度教員がアドバイスして練習効率をあげることが必

要であることがあきらかになった。

2013年度は、1人の学生からかつて習っていた電子オルガンで参加したいと申し出があり、発表会では電子オルガンの多彩な音色を生かすことができた。学生リーダーからは、ギターや合唱も可能ならば入りたいという希望もあったが、6月には3、4回生ともに実習が予定されており、ピアノソロと電子オルガンソロ以外に、アンサンブルをいれることにはクラスの学生の時間と気持ちに余裕がないため次年度への課題となった。

## 2 2014年度

2014年度は、全受講学生が4回生で、ピアノ実技能力は、初心者、中級程度の経験者が同数程度であった。全員採用試験を直前に控えていることを考慮して、音名から長音階、短音階、日本の音階、音程、和声（カデンツ）、主要三和音、コードネーム、調号、近親調など既習の音楽的知識全般について復習をおこなった。

ピアノ技能については、和音の音楽的知識と関連させながら、ハ長調、ト長調、ヘ長調の主要三和音の習得を重点的に、簡単な旋律にふさわしい伴奏を考え演奏できる能力を身に付けることを目標とした。15回の限られた時間の中で、初心者が飛躍的にピアノ技術を向上させることは望めないが、限られた実技能力でも自分で簡単な和音伴奏を付けて歌うことができれば、教育現場において歌唱指導力につながると思ったためである。

その他に、小学校共通教材<sup>3)</sup>の歌唱教材や高学年の歌唱教材、「冬景色」「スキーの歌」「牧場の朝」「こいのぼり」「ふるさと」「越天楽今様」「子守り歌」などの歌唱練習をおこなった。そのうえで、別途個人の課題曲を定め、発表会で演奏できることを目標に学習を進めた。14回目の講義時に実施した発表会までの流れは表3の通りである。

発表会までの流れの最初の段階では、ストーリーの決定から台本の決定、台本の場面によどのような曲を入れるのかイメージする作業、セリフの担当場所を考慮して演奏する場面の分担を決定する作業まですべて学生がおこなった。この後、学生のイメージと能力に合った選曲と編曲を教員が担当して各自の演奏曲を決定した。このため全員

表3 2014年度「白雪姫」発表会までの流れ

	日時	事項
1	4/10	発表会実施の方針確認、リーダー決め。ストーリー決め。
2	4/17	「白雪姫」に決定、台本探し。
3	4/24	仮台本決定。
4	5/1	曲の挿入場面と演奏者決定、挿入曲のイメージを決める。イメージに合わせた発表曲の選曲。
5	5/8	演奏場面を考慮してセリフの配役決め。発表曲選曲と編曲（教員）
6	5/14	リコーダー挿入検討。
7	5/22	連弾、独奏の全演奏曲決定。
8	5/29	連弾1組追加。セリフの役割分担決定。
9	6/5	ストーリーに合わせて通し演奏。時間測定、演奏時間が短いことが判明。
10	6/19	リーダーがセリフを追加、最終台本完成。
11	6/26	通し練習、チラシ作成（リーダー）。各自譜面の整備。お手伝い係の依頼。
12	7/3	宣伝活動（チラシ配布）。
13	7/7	ホールリハーサル。スライド、マイク、動きの確認。リコーダー演奏に振り付け追加。
14	7/10	舞台設営、直前リハーサル。当日用プログラム準備。本番。

の選曲が決定するまでに、1か月以上の時間がかかっている。教員は可能な限り学生の支援に徹するという方針は変更せずに、全員の発表会曲が決定するまでの時間をもう少し短縮し、少しでも練習期間を多く確保することが今後の課題である。表4に演奏順に演奏曲目を記す。

2014年度発表会では、「必ず1人1曲は弾く」原則を守りながら、特に中級程度のピアノ実技能力の学生をより良く生かすために、新たに連弾を取り入れた。

実力差のあるペアの連弾は、想像以上により学習結果があらわれた。初級の学生が迷惑をかけるように非常に努力したことに加え、中級の学生が初級の学生のピアノ演奏を非常によく聴いて、入り損ねたときには何度も同じ場所を繰り返して、入りやすいように配慮する場面が練習中に頻繁に見られた。互いに音を良く聴き合うようになって、ミスをカバーするだけではなく、演奏自体が音量バランスの取れた大変美しいものに仕上がった。伴奏を担当する学生の声部のバランスの良さに加え、旋律を担当する初級の学生のフレー

ズの入りと終わりの音量処理も自分の音を良く聴いていて大変美しかった。

元から中級程度の技術力同士のペアでは、曲の難易度が比較的高かったため、弾くことに気を取られ、最初は独奏と同じように自分のパートの音だけに意識がいて、全体のアンサンブルを聴くことができていなかった。それぞれの実習予定が食い違い、一緒に合わせることもなかなかできなかったが、2人とも実習を終えて本番前2週間ころから音色や音量バランスが調和して1つの音楽を作り上げることができるようになってきた。1人で楽しんで弾ける程度の技術があるからこそ、2人で1つの音楽を作り上げる責任を感じながら、なかなか思い通りにもならない経験を通して、よく互いの音を聴き、呼吸とテンポ感やバランスを合わせて美しく仕上げたことから得たものは多かった。

小人の場面にリコーダーも取り入れてはどうかという教員からの提案を、教員採用試験対策になるという理由もあって、学生は喜んで取り入れ、ピアノとリコーダーのアンサンブルも加わった。この時1人ピアノを担当した学生は、ピアノ曲の途中でリコーダーの演奏が入ってくる際に入りやすいようにテンポや音量を落とす配慮ができていた。教員も連弾で発表会に参加し、連弾までとて

表4 2014年度「白雪姫」における演奏曲目

No.	演奏曲目	作曲者／編曲者
1	コンソレーション	J. ブルグミュラー
2	「ロミオとジュリエット」より「モンタ-ギュ家とキャピュレット家」[連弾]	S. プロコフィエフ
3	66番	F. バイエル
4	ジムノペディ [連弾]	E. サティ
5	口笛を吹いて働こう (White while you work)	F. チャーテル
6	バラード	J. ブルグミュラー
7	ハイ・ホー (Heigh-ho) [ピアノ+リコーダーアンサンブル]	F. チャーテル
8	ひとりぼっち	中田喜直
9	剣の舞 [連弾]	A. ハチャトリアン
10	59番	F. バイエル
11	「くるみ割り人形」より「トレパーク」[連弾]	P. チャイコフスキー
12	いつか王子様が [連弾]	F. チャーテル

も余裕の持てなかった初級の学生もリコーダーを通して、全員でアンサンブル体験ができたことが2014年度発表会の大きな収穫であった。



【写真1】《白雪姫》より（ピアノ独奏）<sup>4)</sup>



【写真2】《白雪姫》より（リコーダー）

では次に、この音楽発表会に向けた練習期間と、発表会当日の経験を通して学生が学び得たものについて、検討する。

#### Ⅳ 学びの内容の分析と考察

##### 1 練習期間の学びの分析と考察

本節では、「音楽Ⅱ」の授業で実施した発表会へむけて学生がどのようなことを学んだのかについて、毎講義後に学生が学んだことの率直な感想や意見を記入したコミュニケーションペーパー<sup>5)</sup>より読み解き、分析を行う。学習期間を第1回講義4/17～第4回講義5/1、第5回講義5/8～第8回講義5/29、第9回講義6/5～第13回講義7/7の3つに分け、それぞれの期間で見られる学生の学びの状況や実態について考察した。(表5～表7)

##### (1) 練習初期 第1回～第4回 (4/17～5/1)

2014年度受講生のうち学校外の音楽経験がほとんどない学生は、音楽に対する苦手意識があることが受講前のアンケートに記されている。

表5は、学習期間(4/17～5/1)におけるコミュニケーションペーパーから、授業の学習内容について感想を述べている記載内容を採り上げ考察したものである。

表5 学びの内容と分析 (4/17～5/1)

	○学生のコメント	◎考察
4/17	・楽譜を読むのに苦勞。左手はまだ怪しい	まだ始まったばかりで苦勞している
	・白雪姫に決まってよかった。早い段階から練習を始めたい。	題材が決まって意欲が高まっている
	・音楽に触れることがあまりないので新鮮な気持ちになった。	実際に音楽をやる事に新鮮さを感じている
4/24	・片手ずつならなんとかできました。両手になるとやっぱり難しい。	片手ずつゆっくり出来る様になったが両手はまだ難しい状況。
	・右手と左手のリズムが一緒になってしまう。	両手で弾く事に難しさを感じている
5/1	・左手はできるが知識がおいつかず。	言われていることは理解できるが、思うようにいかず難しさを感じている状況。
	・連弾も今からうきうきしています。	はじめて経験する連弾に期待している様子。

初期段階においては、「難しい」という思い、楽器にふれることができている新鮮な気持ち、お話に基づく音楽発表会に対する期待など、学生それぞれの心情をよみとることができる。

この期間において、特徴的なことは、「難しい」、「苦勞」「できない」といった、音楽に対しての苦手意識や不安感が多く表れていることである。

##### (2) 練習中間期 第5回～第8回 (5/8～5/29)

表6は、学習期間(5/8～5/29)における記載内容を取り上げ考察したものである。

この期間において、特徴的なことは、練習を重ねてきた結果が出始めて、「出来る」ことを実感し始めていることが挙げられる。練習初期では、「苦手」、「左手が怪しい」などのコメントが多かったのに対し、5/15以降の講義では、「譜読みが出来たようになった」等、「できるようになった

表6 学びの内容と分析（5/8～5/29）

	○学生コメント	◎考察
5/8	・音符を見てすぐにどの音を弾くことができな い。少し練習するとあ る程度弾くことができ る。	今まで出来なかったの が、出来る糸口を見つけ たようす。
	・連弾はやっぱり難しい。 個人とは違うプレッ シャーが。	連弾の難しさを感じる
5/15	・譜読みが出来る様にな り感動しました。	譜読みが出来て達成感 を感じている。個人練習も 意欲的にしようとしてい る。
5/22	・譜読みが出来るようにな ってきました。個人 練習が足りてないので 時間の工夫をして練習 します。	練習に対して積極的にな ってきている。
5/29	・白雪姫の連弾の譜読み が何とか終わりました。 がんばりました。	連弾で相手が不在でも個 人練習にはげむ姿がみら れる
	・白雪姫役ががんばりま す！発表会の曲も	役が決まり、責任も感じ、 意欲的になっている様 子。

こと」について書かれたものが増えている。出来ないことに不安や難しさを感じていた時期から、「練習を重ねたら出来るようになる」ということを実感する時期に変化していると思われる。連弾を予定している学生は、個人練習を重ねて少しずつ弾けるようになり、連弾への意欲が高まる一方で、個人演奏とは異なるプレッシャーを感じていると記載されている。

(3) 練習後半期 第9回～第13回（6/5～7/6）

表7は、学習期間（6/5～7/6）における記載内容を取り上げ考察したものである。

この時期は、通し練習を始めたことで、自分の演奏だけではなく、他者の演奏も含めて《白雪姫》のストーリー全体として感じられるようになり、自分たちの演奏に対して視点が広がった。コミュニケーションペーパーからは「強弱をつけるのが難しい」、「抑揚に気をつけたい」など、音のミスだけでなく、曲の表現方法への意欲が表れ始め、音楽的に大きな成長が見えた。それぞれが技術的に練習を重ねてきた時期を経て、物語に合わせて曲を入れて通すことで、全体のイメージがより豊かにふくらみ、それが各自担当する楽曲への表現

表7 学びの内容と分析（6/5～7/6）

	○学生コメント	○考察
6/5	・実習に入りますが土日を使 って練習してきます。	実習中も練習しようと意 欲を感じる
6/26	・連弾頑張ります。迷惑 かけないように	連弾をすることを決定。初 めての試みに意欲を感じる
	・一度通してみてもみんな の曲を聴いてどうにかなり そうだなと感じました！と ても緊張するのでたくさん 練習したいです。がんばり ます。	通し練習から実際の舞台 が見えてきたようす。
	・練習の成果が出てきまし た。この調子でがんばりま す！もっとうまくなりたい。	練習の成果が演奏に表れ て達成感を感じている。
	・連弾まず自分ができ るようがんばります！	連弾の難しさを感じる難 しさを感じているが意欲 的。
7/3	・今日は個人と連弾の演奏 がさらにパワーアップしま した。通しの練習も感情を こめて言う雰囲気が出てき て来週が楽しみです。	回を重ねるごとに上達し ていることを実感してい るようす
	・音の強弱をつけるのが 難しい	音の間違いのレベルをこ して強弱の工夫を感じる ことができています。
	・リコーダーを本格的に合 わせてみて登場の仕方が決 まってきたととても楽しそ うになると思いました。	リコーダーの演出を入 れることにし、さらに工夫 をしようとしている。
	・連弾もほぼできてよ かった。	連弾が仕上がってきてう れしい様子。
7/6	・小人の登場シーンも可 愛くなったのでイケイ ケな感じに登場したい。	小人の舞台演出も決まり さらに意欲が高まる。
	・ホールで弾くグランド ピアノは気持ちよかつ たです。あと少しなの で楽しみたいと思う。	初めての舞台に感激して いる様子。意欲がさらに 高まる。
	・実際にホールでやってみ ていつもとは全然感じが違 っていて緊張したけどなん とか弾くことが出来てよかつ た。音の抑揚にきをつけて 本番がんばりたい。	実際のホールで演奏し感 動している様子。緊張感 を持ちさらに練習を重ね ようと意欲が高まる。
	・ピアノは何とかなりそ う。リコーダーの準備 をもう少しやって体調 を整えたいと思います。	不安だったピアノ演奏も 仕上がってきて満足な様 子。
	・改善点をなおして成功 させたい！	リハーサルでの改善点を 本番に生かしていきたい様子。
	・当日がんばります！せ んでんもし、今から（演 出用の）ほうしをつく ります。	自分達の舞台を他の学生 にも見てもらいたいと更 に意欲が高まる。

への意欲とつながって、積極的な姿勢が見られるようになったと推察できる。

また、7/8に実施したホールでのリハーサル

練習では、「いつもと全然違う」、「グランドピアノは気持ちよかった」など、ホールという演奏場所の音響や、グランドピアノという楽器によっても意欲を高められている様子が窺える。この時期に、ピアノの曲にリコーダー演奏を加え、登場や照明の工夫を加えた場面を作るなど、全体としての演出にさらに意欲的になっている。1人ではなく、みんなでひとつの曲を仕上げると意識が強くなってきたことで、「もっとうまくなりしたい」「成功させたい!」や「感情をこめて（せりふを）言うと雰囲気が出て」、「せんでん（宣伝）もして」など意欲的な感情が表れてきたのだと考察することが出来る。

以上、音楽に対して苦手意識を持つ学生も、音楽経験がある学生も、それぞれ自分のレベルに応じた楽曲を選曲して全員で《白雪姫》の舞台を仕上げる過程で、苦手意識や技術的な難しさを克服して、音楽を表現することへの意欲を増していった様子を窺い知ることができた。

では次に、音楽発表会を無事に終了後の15回目講義時に実施した「自己分析シート」に学生が記載した内容について分析をおこないたい。

## 2 発表会当日の学びの分析と考察

本章では自己分析シートに書かれた内容をもとに、特に発表会時について自己評価、発表会時の他己評価、全体評価について分析をおこなう。自己分析シートは最終講義時に、前週の発表会までの自らの取り組みや本番時の演奏を振り返り、感想や反省等について記入を求めたものである。以下に回答より代表的なものについて抜粋する。

質問：演奏した曲についてどのように演奏しようと思っ掛けましたか？  
また自分の思ったように演奏できましたか？

- ・とにかく早くならないように心がけた。少しづれていた部分もあったがゆっくり丁寧に弾くことができたので満足している。
- ・強弱やテンポを気を付けました。
- ・メリハリをつけて演奏しようと思いました。
- ・曲が棒読みみたいになる傾向があったので、強

弱と曲の入り、小節の頭に変化をつけるように心がけた。

上記のように学生それぞれが自分の演奏について単にミスしないように弾こうというのではなく、表現について各自の目標をもって本番の発表に臨んでおり、受講初期に比べあきらかに自分に求める「音楽的水準」が向上していることがわかる。結果についても非常に冷静に自己評価ができていた。「表現意欲」、「自己評価能力」の両面で成長が感じられた。

質問：他の人の演奏はどうでしたか？

- ・他の人の演奏はとても素晴らしかった。特にミスした時の修正能力が優れていた。また強弱の付け方も非常にうまく見習う部分が多かった。
- ・感動しました。みんなの努力が見えました。
- ・みんなそれぞれ一生懸命練習していたのを知っているから本番はとても感動しました。
- ・舞台裏でどきどきしていました。みんな度胸あるなどあらためて思いました。

全員で1つの舞台を作り上げる練習過程で、自分の演奏と同様に他の人の演奏を注意深く「聴く力」が身につけている。1人の学生の記載には、他の人の演奏をただ「上手」「下手」と評価するのではなく、「特にミスした時の修正能力が優れている」「強弱の付け方がうまい」と非常に細かく分析的に聴いている。さらに、他者の努力を認め、共感、尊重し合う中から、良い部分を「見習いたい」と「向上心」が育っていることがわかる。

質問：お話しにそって1つの音楽をつくった取り組みを通して感じたことは？

- ・ただピアノを練習するだけでなく作品として完成させることで意欲が高まり、自分の中で目標ができたのでピアノの練習を続けることができた。また全員で協力し、達成感を共有できたのもよかった。
- ・みんなで1つのものを作り上げることでとても



達成感を感じることができた。

- ・みんなで1つのものを作る楽しさや充実感をあじわうことができました。
- ・音楽があるだけで言葉では伝わらない雰囲気や情景を想像しやすくしていることを感じた。明るい曲調、暗い曲調などその曲の特徴をつかみながら、お話しの中に取り入れていく難しさと楽しさを感じることができた。

1人の学生の記載からは、お話とピアノ曲の曲調が結びつくことにより生まれるイメージを楽しんでいることがわかる。音楽とお話の双方のイメージを豊かに広げるうえで、お話付き音楽発表会が効果的であったことがわかる。

さらに全員で1つの舞台を作り上げる過程でピアノ練習の意欲が高まったこと、目標ができたことによってピアノの練習が続けられたこと、楽しさや充実感と、全員で達成感を味わうことができたことなどが挙げられた。

最後にこの授業でできるようになったと感じることについて問う質問には、「技術はまだまだだが、自分にもピアノが弾けるという自信がついたのは大きかった」「自分に自信が持て、新たな可能性を感じることができた」という記載があった。

これらの学生の声から、お話付き音楽発表会の取り組みにより学生が得られた学びについて下記のようにまとめることができる。

- ①お話に基づいてみんなで1つの作品を作り上げる「楽しさ」は、実技に苦手意識を持つ学生が意欲を持って学習するための動機づけとして、非常に大きな力になっていた。
- ②弾けるようになった1曲1曲がストーリーでつながれ、みんなで1つのものを作り上げるうえでの「責任感」がピアノ練習を継続させる力となった。
- ③曲が弾けるようになることはそれだけでも楽しく意欲を育むが、同じように努力している仲間とその練習成果を身近に感じ合うことで、一層「向上心」を芽生えさせることができた。
- ④音楽とお話が結びつくことによって、互いに

より一層「イメージを豊かに広げて感じる」ことができ、楽しさが増した。

- ⑤同じように努力している仲間の演奏に関心を持って聴くことを通じて、「聴く能力」が育っていた。
- ⑥自分の「可能性」を信じることができ、成長を自ら自覚できる時に生じる本来の学びの楽しさを感じることができた。
- ⑦舞台ができ上げる喜びと楽しさに対する期待は学習の動機になり、素晴らしい発表会ができた「達成感」は音楽やピアノを愛好する気持ちを育てた。

以上、お話付き音楽発表会の取り組みから、学生が学習に対して最初抱いていた苦手意識・不安感から積極的に表現意欲を持つようになっていった学びの過程を表す7つのキーワードを導出することができた。すなわち、「楽しさ」、「責任感」、「向上心」、「イメージ」、「聴く力」、「可能性」、「達成感」である。これらの学びの過程を経て、本取り組みで学生の音楽的、人間的両面での成長を確認することができた。

## V まとめ—課題と展望—

本稿では、「音楽Ⅱ」で取り組んできたお話付き音楽発表会を通して、学生にどのような学びと成長が見られたのかについて、学生の声をもとに振り返り、分析と考察を行った。楽しさを感じながら演奏出来た上に、受講生同士の繋がりも深まり、責任を感じるとともに意欲も向上するなど、お話に基づいた音楽発表会の取り組みは、教員養成課程の学生の実技能力を高める工夫として有意義であったと考えられる。

今後の課題としては、発表会の周知方法や集客の工夫が挙げられる。学内ホールで授業時間内の音楽発表会であり、時間帯も含め、より集客しやすい方法を模索したい。「音楽Ⅱ」は小学校教員養成課程における教科専門科目であることをふまえ、地域の子ども達との連携や、小学校国語教材から題材を採り上げて教科間の連携を深めること等を視野に入れ、さらに工夫を深めた取り組みにしていきたい。

【註】

- 1) 2013年度は14名、2014年度は17名である。
- 2) A. メンケン作曲『美女と野獣』（ヤマハ音楽振興会）に掲載された曲を指す。
- 3) 「小学校学習指導要領」には第1学年から第6学年まで歌唱共通教材が示されている。〔第1学年〕「海」「カタツムリ」「日のまる」「ひらいたひらいた」、〔第2学年〕「かくれんぼ」「春がきた」「虫のこえ」「夕やけこやけ」、〔第3学年〕「うさぎ」「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」、〔第4学年〕「さくらさくら」「とんび」「まきばの朝」「もみじ」、〔第5学年〕「こいのぼり」「子もり歌」「スキューターの歌」「冬げしき」、〔第6学年〕「越天楽今様」「おぼろ月夜」「ふるさと」「われは海の子」が示されている。
- 4) 学生には、人物の特定ができない条件で掲載許可を得ている。
- 5) 学生には、教育研究上に使用できる可能性があることを説明のうえ、記入を求めた。

【引用・参考文献】

- 岩崎洋一、後藤薫 1989 「教員養成大学における音楽科教育の授業内容に関する一考察」『福岡教育大学紀要』第38号、第5分冊、芸術・保健体育・家政科編、pp.135-148
- 太田正清 2014 「小学校教員を目指す学生の音楽能力の実態と伸長に関する調査・研究（2）」『学校音楽教育研究』第18巻、pp.268-269
- 三小田美穂子 2011 「体育系教員養成課程における鍵盤楽器指導に関する研究」『国士館大学体育研究所報』第30巻、

pp.103-109

- 津田正之 2006 「教員採用選考における音楽実技試験の現状と課題 全国の都道府県・政令指定都市の検査方法の検討を通して」『琉球大学教育学部実践総合センター紀要』第13号、pp.53-68
- 森村祐子 2014 「小学校音楽科教育における一考察（Ⅲ）—養成校におけるカリキュラムの再考—」『学校音楽教育研究』（日本学校音楽教育学会編）第18巻、pp.272-273
- 梁嶋章子、山崎和子、坂井康子、松井明恵 1989 「初等教員養成のピアノ指導についての研究」京都教育大学紀要 No.75、pp.59-84

【参考楽譜資料】

- W. ギロック 「こどものためのアルバム」全音楽譜出版社
- D. カバレフスキー 『こどものためのピアノ小曲集』全音楽譜出版社
- E. サティ 「ジムノペティ」全音楽譜出版社
- 中田喜直 『こどものピアノ曲』音楽之友社
- J. バスティン 『ベーシックスパフォーマンス レヴェル4』東音企画
- J. ブルグミュラー 『25の練習曲』全音楽譜出版社
- A. メンケン 『美女と野獣』ヤマハ音楽振興会
- ヤマハ音楽振興会編 『オルガンピアノの本』第4巻 ヤマハ音楽振興会
- 『クラシック名曲連弾25選』リットーミュージック
- 『チェルニー20番』教育芸術社
- 『バイエル教則本』全音楽譜出版社
- 『Disney SONGS』HALLEONARD corporation